

武内	202	110	000	6
豊海	322	000	20x	9



内海・永井駿亮主将 (左)

武豊・柳田陽治主将 (右)

2021
夏

3点リードの九回表2死一、二塁、内海の遊撃手、永井駿亮主将(3年)は自らに言い聞かせた。「俺のところに飛んできて」。武豊の4番・柳田陽治主将(同)の打球は願っ

春まで「仲間」一番のライバル

た通りに自身の前へ。冷静に捕球して二塁封殺。仲間とクラブを合わせて勝利を喜んだ。

両校は部員不足で今春まで連合チームとして活動していた。永井主将は「ずっとやってきた仲間だからこそ絶対勝ちたかった」と話す。

初めて連合チームを組んだのは永井主将が1年生だった一昨年の秋。当初は互いに人見知りして同じ学校の選手たちと固まっていたばかり。「単独でやりたいというのが本音だった」。だが、野球の話をするうちに距離が縮まり、グループPLAINで頻繁に連絡を取り合ったり休日遊んだりするようになった。

昨夏の独自大会には単独で出場したが、昨秋から再びともに活動。連合チームとしての主将も兼任するよ

うになると、自分から積極的に武豊の下級生に話しかけるなどチーム全体の様子を見るように心がけた。

両校の対戦が決まったのは6月中旬。抽選会を終え、一番のライバルである柳田主将に「俺たちが絶対勝つからな」とPLAINを送ると「いや勝つのは俺たちだから」と返事があったという。

試合後、柳田主将は「これまで自分たちだけでは大会に出ることもできなかったので、内海のみんなにありがとうと言いたい。絶対に上まで行ってほしい」と声を振り絞った。

3安打、4打点と活躍した永井主将は「武豊のみんなのおかげで自分たちも成長できた。(武豊の)9人分の思いも背負って次も必ず勝ちたい」と前を向いた。(仲川明里)